



1 受講上の注意

- (1) 受講マナー
 - 静粛かつ真剣に受講すること。私語は禁止。
 - 携帯電話の使用は禁止。
 - 授業中の飲食は厳禁。
- (2) 教室内のマナー
 - 清潔な教室を心掛け、ゴミは所定の場所に分別して捨てること。
 - 机・椅子を移動した場合は、元の場所に戻すこと。

2 授業への出席

履修科目の授業には、毎回出席しなければならない。単位制の基本となる授業時間について定めがあるように、出席状況は成績評価の前提条件である。授業出席時に必ずカードリーダーに学生証をかざして出席登録すること。なお、教室備付カードリーダーは、授業開始から30分経過後に読み取り不可となる。

3 休講・調整・補講・授業時間割の変更について

- (1) 休講

休講の場合は、事前に掲示によって周知する。

休講の掲示がなく、40分経過しても授業が行われなかった場合は、教務課で確認すること。
- (2) 補講

休講等に対する措置として行う授業であり、臨時で行われる。
- (3) 授業時間割の変更

授業の曜日・時限・教室・担当教員に変更がある場合は、事前にKUPORTによって周知する。

4 緊急時の授業措置について

緊急時の授業措置は、下記①. 交通機関が不通の場合、②. 暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合、③. その他の緊急事態の場合を基準に判断するが、あくまで**学長が決定する**。休講が決定した場合は、学園ポータルシステム（KUPORT）により周知する。従って KUPORT で休講の通知がない場合は、原則として授業は実施する。（携帯電話での利用についてはパソコン Web ブラウザでの利用設定指示に従うこと。）

<学園ポータルシステムアドレス> Web ブラウザ <https://kuport.sc.kogakuin.ac.jp/>

- (1) 交通機関が不通の場合
 - 新宿キャンパスの場合

首都圏の JR および新宿に乗り入れている私鉄の大半が長時間に渡って不通の場合、休講となる可能性があるため、必ず学園ポータルシステム（KUPORT）を確認すること。
 - 八王子キャンパスの場合

以下の路線のうち、いずれかの路線が不通となった場合は休講となる可能性があるため、必ず学園ポータルシステム（KUPORT）を確認すること。

 - ・ JR 中央線（立川～八王子間）、京王線（京王八王子～調布間）が両方とも不通となった場合
 - ・ 横浜線（八王子～橋本間）が不通となった場合
 - ・ 西東京バス（工学院大学～JR八王子・京王八王子間）が不通となった場合

※ 1路線が短時間不通となった場合は、授業を休講とはしない。
- (2) 暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合

新宿キャンパスは東京23区、八王子キャンパスでは多摩南部に、暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報が発令された場合には、授業が休講となる可能性がある。また、警報等が解除されても交通機関に影響が出ている場合は、「1. 交通機関が不通の場合」の措置を適用するので学園ポータルシステム（KUPORT）で確認すること。

授業実施中に警報が発令された場合、授業の継続・中止の判断は学長が行うとともに、学内の緊急放送および掲示等で周知する。

なお、自宅付近の気象情報を十分に注意し、危険が伴う場合は無理に登校せず、自身の安全を確保すること。（この場合、事後で構わないので、授業担当教員に報告すること。）
- (3) その他の緊急事態の場合

上記以外の緊急事態の場合、学長の判断で決定する。

5 ハイブリッド留学

ハイブリッド留学とは、学生が、留学先の提携校では本学授業を日本語で受講し、生活はホームステイをしながら全て英語で過ごすというハイブリッド環境による留学プログラムで、「まず海を渡らせる」ことを最優先に考えた本学独自のプログラムである。滞在地や実施時期など、詳細については本学ホームページにて確認できる。ハイブリッド留学は、本学教員が留学先に渡航して日本語で授業を行うため、参加にあたって英語力は問わない。また、現地提携校での授業料は必要ないため、留学費用負担が少ないこと等が特長的である。ただし、最大実施人数と最少実施人数が定められている。また、参加に際しては、「募集説明会」への出席が必須条件となる。説明会日時や参加申込などの詳細については、学園ポータルシステム（キューポート）にて確認すること。また滞在国の状況により、事前の通知なくプログラムを中止もしくは変更することがある。

6 東京理工系4大学単位互換制度

工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学および東京都市大学の4大学は、「東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づき、1999年度から単位互換制度を設けた。

これは、各大学で開設している授業科目を他の3大学の学生に対して門戸を開放する単位互換制度で、単位互換開放科目として履修できる。なお、大学によっては受講を制限する科目および受講者数を制限する科目があるため、教務課の窓口で履修相談すること。

① 単位互換開放科目の履修について

項目	摘 用
対象学部・学科、学年	全学部 全学科、1年生～4年生
	他大学第1部・第2部の単位互換開放科目の履修可。ただし、第2部以外の学生は第2部の単位互換開放科目を履修しても、単位は卒業に必要な単位数に認定しない。
履修許可する単位互換開放科目	同名称、類似科目でも可。また、必修科目も可。
履修許可する配当学年	特に定めない。
履修許可する授業科目数	1名4科目まで（年度） *理工系4大学と大学コンソーシアム八王子の合計とする。
授業科目の人数制限	1科目3名まで
履修許可の責任者	学生の所属する学科の学科長
履修登録時期	前期・後期の2回（掲示で周知する）
聴講料等	聴講料、入学検定料、入学金等は免除。ただし、実験・実習等で特別にかかる費用は実費徴収とする。

② 単位認定について

受け入れ大学からの成績評価に基づき、本学で単位認定する。

単位認定された科目は、各学部・学科の自由枠として卒業所用単位に算入できる。

ただし、各学部・学科により算入できる単位数が異なるので、注意すること。

学部	各学部の自由枠として卒業所用単位に算入できる単位数 *理工系4大学と大学コンソーシアム八王子の合計
先進工学部	各学科の自由枠単位数を上限とする（詳細は、所属学科の卒業所用単位数を確認すること）注）
工学部	各学科の自由枠単位数を上限とする（詳細は、所属学科の卒業所用単位数を確認すること）注）
建築学部	8単位 注）
情報学部	4単位 注）

注）第2部の単位互換開放科目を履修しても、単位は卒業に必要な単位数に認定しない。

7 大学コンソーシアム八王子単位互換制度

本学は、大学コンソーシアム八王子に加盟しており、大学コンソーシアム単位互換協定に加盟している大学等の講義を履修できる。

大学によって開講科目が定められているので、詳細は教務課の窓口で履修相談すること。

① 単位互換開放科目の履修について

項 目	摘 用
対象学部・学科、学年	全学部 全学科、1年生～4年生
履修許可する単位互換開放科目	原則として他大学が提供するすべての科目 本学科目と同名称、類似科目でも可。
履修許可する配当学年	特に定めない。
履修許可する授業科目数	1名4科目まで（年度） *理工系4大学と大学コンソーシアム八王子の合計とする。
履修許可の責任者	学生の所属する学科の学科長
履修登録時期	前期・後期の2回（掲示で周知する）
聴講料等	協定に基づき無料

② 単位認定について

受け入れ大学からの成績評価に基づき、本学で単位認定する。

単位認定された科目は、各学部・学科の自由枠として卒業所用単位に算入できる。

ただし、各学部・学科により算入できる単位数が異なるので、注意すること。

学部	各学部の自由枠として卒業所用単位に算入できる単位数 *理工系4大学と大学コンソーシアム八王子の合計
先進工学部	各学科の自由枠単位数を上限とする（詳細は、所属学科の卒業所用単位数を確認すること）注）
工学部	各学科の自由枠単位数を上限とする（詳細は、所属学科の卒業所用単位数を確認すること）注）
建築学部	8単位 注）
情報学部	4単位 注）

注）第2部の単位互換開放科目を履修しても、単位は卒業に必要な単位数に認定しない。

8 学外研修（インターンシップ）制度

インターンシップは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」であり、教育の改善・充実および学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成などの意義を有するものである。

工業技術の現場におけるさまざまな現象、実態を認識し、経験する過程を通じて「指導的技術者として必要な人間性の育成」と「実践的技術感覚を体得させる」ことができる。

項 目	摘 要
実施時期	原則として夏期休暇中に行う。
実施期間	2週間以上3週間以下とする。
履修学年	3年生
単 位	2単位
履修登録等	説明会を開催する。（日程等はKUPORT/掲示を確認すること）

9 大学院科目の履修

本学大学院進学を予定している4年次生に大学院の開講科目を、先に履修することができる『先取り履修』制度がある。ただし、単位認定は、本学大学院入学後に行い、学部の修得単位にはならない。詳細については、KUPORTの掲示を確認すること。